

みすていく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

【第1話】

※ この物語は、フリーゲーム「みすていく☆ばる～ん」と、そのユーザー制作ステージに着想を得たフィクションです。改稿にあたってはkuu10さんにご支援を頂きました。

* * * * *

からくり屋敷を脱出したことで一躍有名になったミスティアは
そのあとも活躍を続け、今では王様とも仲良しになりました
でも冒険に憧れる彼女には、お城暮らしは退屈そう

そんなミスティアが、ちょっと変わった探検隊を始めるようです

* * * * *

～ある日～

ミスティア

「おーさまー！ 聞いて聞いて！ 図書館でとっても面白い本を借りて読んだの！
国中を冒険しながら不思議なパワーの宝石を集めるお話！
それでね、影の大王っていう悪者から国を救うの！
だから私もミスバル王国を救うヒロインになるの！」

王様

「いや、ウチの国は平和だから」

～次の日～

ミスティア

「おーさまー！ あのねあのね、友達の部屋ですごく面白いゲームをしたの！
白き神ノザとかいう感じのタイトルで、一番高い山に世界で初めて登るの！
だから私もこの国で一番高い山のとっぺんを目指すの！」

大臣

「大きな夢を持つなどとは言いませんがね。我が国には、まだ誰も登頂していない高い山は
いくつもあるのです。たとえば親子熊連峰は、超一流の登山家でも半分ほどしか登れてい
ないのですぞ」

みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

～また次の日～

ミスティア

「おーさまー！ 見て見て！ 魔法使いのお姉さんに最強魔法を教えてもらったの！
灼熱の紅蓮に触れるものは 無限の時間を彷徨い朽ちる
エターナル・フォース・ブリザード！！」

首席顧問

「炎で始まり氷で終わるような詠唱があるものですか。そんなことにも気づかないとは情けない。ミスティアさんはもっと魔法の基礎修練を…」

ミスティア

「もー！ 何で大人はみんな私の夢の邪魔ばかりするのよ！」

大臣

「我々は当然の忠告をしているだけのことです」

王様

「まあまあ静かに。ミスティアよ、世界を救うヒロインは無理でも、えーその、実は、不思議な力を持つオーブならこの国に存在しておる。そこでちょっと待ってなさい」

そう言うと王様はおもむろに立ち上がり、王の間を出て行きました。

* * *

戻ってきた王様は、占い師が使う水晶玉のようなものを持っていました。

王様

「これは王室のオーブだ。宝物庫で厳重に管理している。魔力を帯びているが、魔法省の専門家にも詳しいことは分からなかった。ただ、王家の間には、オーブにまつわるちょっとした伝え話があるのだ」

ミスティア

「すごーい！ きれー！！ もっと良く見せて！」

半ば無理やり受け取ったオーブは、見た目以上に重さのある完全な球体で、窓から見える晩秋の空と同じ、深く澄んだ青色をしていました。

みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

王様

「これこれ、まだあげるとは言っておらんぞ。返しなさい」

王様

「どこまで話したかな。ああ、王家に伝わる話をしていたところだったな。この国のどこかに、同じようなオーブは全部で6つあるそうだ。そして全てのオーブを集めたときには、王国の北にある、これ、ミスティア、聞いておるかね」

ミスティア

「え？ なに？ ごめんなさい、オーブを見ていて、途中あんまり聞いてなかったの」

王様

「やれやれ、まあ要するに、オーブ集めに挑戦してみないかということだ」

ミスティア

「集める！ ミスティアはオーブを集めて伝説のヒロインになる！」

王様

「よし。えー、コホン。

それではミスティア、そなたを『ミスティア探検隊』の隊長に任命しよう。
最初の任務は……」

ミスティア

「ありがとー、おーさま！ それじゃさっそく探検に行ってくるね！」

大臣

「陛下のお話も聞かず飛び出して行きましたぞ」

首席顧問

「陛下、そのオーブですが、わたくし不勉強なもので存じませんでした」

王様

「……うむ、実はそのことで二人に話がある」

* * *

～数日後～

大臣

「陛下、保安省からご報告です。ミスティアを保護いたしました。ろくな装備も持たずに

みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

一人でバニ大迷宮に突っ込もうとしておりましたところ、迷宮の入口の警備員が見つekま
して、無事に保護したとのことでした」

王様

「……。とりあえずミスティアをここに連れてくるように」

～しばらくして～

ミスティア

「ミスティア探検隊、ただいま無事に帰還しました！！」

王様

「元気でよろしい。それでは無事に帰った褒美に、最初の任務を授けることにしよう」

(手近な洞窟に仕掛けておいた宝箱を取ってこさせるつもりだったのだが。しかしこの様
子だと、素直に洞窟に行きそうにはないな……)

「んー、コホン。ミスティア探検隊の、最初の任務として文献調査を命ずる。良い探検は
良い調査からというわけだな。王国図書館に行くように。ブルーオーブは図書館長に預け
ておく」

ミスティア

「え！ 文献調査？ お勉強はいやー！」

～図書館にて～

図書館長

「はじめまして、ミスティアさんですね。話はすでに聞いています。読むべき文献を探す
ところから始めてもらいたいところですが、司書に文献探しをお願いしておきました。こ
ちらの文献を全てよく調べたら、お預かりしているオーブをお渡ししましょう」

【ミスティアは 分厚い本20冊を手に入れた！】

分厚い本 (20)

→ つかう
わたす
すてる

(ピッ)

(ピッ)

みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ名作集
ミスティア探検隊と6つのオーブ

分厚い本 (20)

つかう

わたす

→ すてる

(ピッ)

【それを捨てることはできません】

こうして、ミスティア探検隊のオーブ探しの冒険(?)が幕を開けたのでした。

* * *M* * *Y* * *S* * *T* * *J* * *C* * *
みすていっく☆ばる～ん 投稿ステージ 名作集 Presents
ミスティア探検隊と6つのオーブ
* * *B* * *A* * *L* * *L* * *O* * *O* * *N* * *